

令和5年西条市二十歳の集い

丹原文化会館

二十歳の主張

越智 祐介

本日は、私の故郷である西条市で、多くの仲間とともに無事に二十歳の集いを迎えられましたこと、大変うれしく思います。また、このような盛大な式典を開催していただき、市長をはじめ関係者の皆様に、二十歳を迎える者を代表して、心より感謝申し上げます。

私は、自然と伝統の町西条が大好きです。思い返すと、今日この日を迎えるまでの20年間は、西条というこの土地での出会いと支えが、私を大きく成長させてくれました。

学校では集団生活における協調性や勉学の大切さ、地域の方々や友達からは人の温かさを学びました。そして、両親からは数えきれないほどの大切なものを学びました。これらの出会いと学びがなければ今の私はありません。ここまで育ててくれた両親、そして西条というこの土地に心から感謝しています。

現在、私は西条市を離れ、大学で将来の夢に向かって日々勉学に励んでいます。そんな中、大学祭実行委員会という組織に所属し、実行委員会の幹部として昨年の11月に開催された大学祭を運営しました。コロナ禍の影響で、入場制限などの新型コロナウイルス感染症対策をしなければいけないということや、三年ぶりの対面開催で十分な引継ぎがないということで、自分たちが一から作る大学祭となりました。たくさんの企業と連絡を取り合うことや、大学祭に参加する部活動やサークルをまとめることなど、大変なことしかありませんでした。勉学との両立でも苦しい思いをしましたが、なんとかやり遂げ、総来場者数1万人を超える大成功に収めることができました。この経験は二十歳というまだまだ未熟な自分にはあまりにも大きなものでした。

この素晴らしい経験を活かして、私を育ててくれた西条市、そして社会全体に貢献できるような立派な大人になりたいと思っています。

最後になりましたが、本日はこのような発言の機会をいただき、誠にありがとうございました。以上を持ちまして、私の二十歳の主張とさせていただきます。